

発効日 平成30年8月2日

# 環境活動レポート

対象組織名：丸山グループ

丸山産業株式会社  
関連事業所 本社・東京営業所・多摩営業所・前橋営業所  
丸山化工株式会社  
本社・東京事業所・前橋工場

対象期間 平成29年4月1日 ～ 平成30年3月31日

丸山産業株式会社・丸山化工株式会社  
代表取締役社長  
竹井 良

## 《目次》

1. 環境方針	P-1・2
2. 事業活動の規模	P-3
3. EA21推進体制	P-4
4. 環境目標とその実績	P-5・6
5. 環境活動の取組計画と評価	P-7
6. 環境関連法規制の遵守	P-8
7. 代表者による全体評価と見直し	P-8

# 環境方針

## 〔基本理念〕

私たちは、地球環境を守り育て、明日を担う子供たちに胸を張って引継げるよう、  
すべての企業活動を環境に配慮して行います。

## 〔基本方針〕

環境保全活動を推進するにあたり、以下に主な活動項目を掲げ取り組みます。

- 1、当社の主力事業である、工業用ゴム製品の製造・販売の領域において技術的・経済的な事情を考慮の上、環境に与える影響を低減するとともに、循環型の実現に努めます。
  - ①二酸化炭素排出量削減のため、使用電力削減・使用化石燃料削減・廃棄物の削減に努めます。
  - ②事業活動で発生する廃棄物は、発生を抑制するとともに再使用の向上に努めます。
  - ③限りある水は、使用量削減のため節水に努めます。
- 2、環境活動の継続的改善を推進するにあたり、環境目標・環境活動計画を策定し取り組み、策定した目標・活動計画は定期的にあるいは必要に応じて見直します。
- 3、事業活動において、環境に関わる法律・規制その他公的基準を厳守します。
- 4、環境方針は、全社員に周知するとともに、環境教育を行い社員の環境に関する意識を図ります。
- 5、環境管理に関する情報は、社内外に公表し、地域社会とのコミュニケーションを図ります。

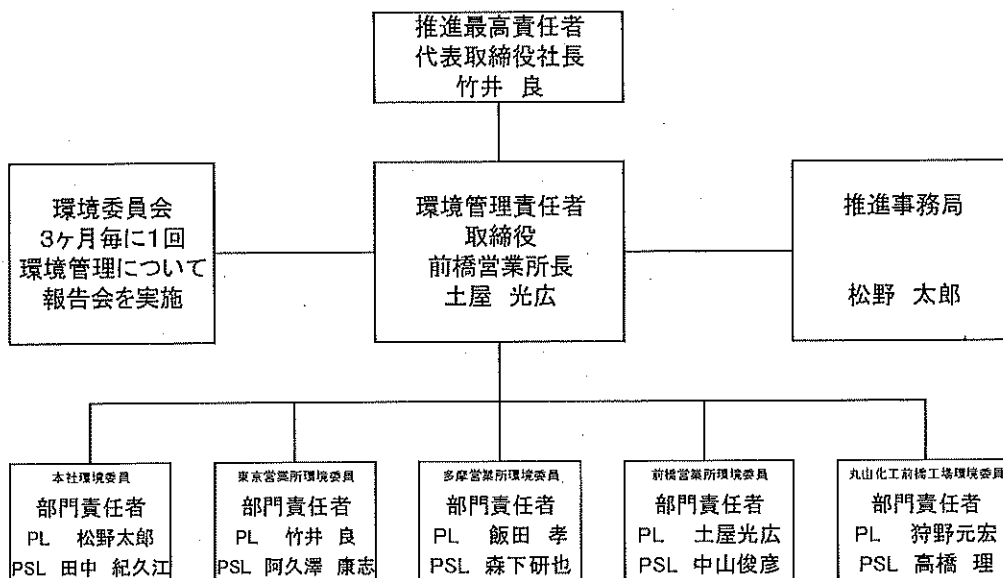
2008年 10月 2日

丸山化工株式会社

代表取締役社長

竹井 良

エコアクション21 推進体制組織図



職名	役割
最高責任者 代表取締役社長 竹井 良	① 推進事務局及び環境委員会をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ② エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源(人材・資金・機器・技術・技能を含む)を準備する。 ③ 環境方針を制定する。 ④ エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境方針・環境目標をはじめシステム全体の見直しを行い、必要に応じて改訂を指示する。
環境管理責任者 土屋 光広	① エコアクション21に関する経営資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境委員会を運営する。 ② エコアクション21の構築を運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
事務局 松野 太郎	① 事務局として、環境責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
環境委員会	① 最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、3ヶ月に1回環境管理責任者が招集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めたものは出席することができる。

#### 4. 環境目標とその実績(1)

当社に於ける平成26年度の環境負荷実績を把握し、平成27年度～平成28年度の目標を下記の通り定めました。  
 購入電力の二酸化炭素排出係数は0.378を用いています。  
 (丸山化工㈱本社・東京事業所のガソリン使用量以外の数値は丸山産業㈱本社・東京営業所の数値に含まれています。)

環境目標項目	H28年度(基準値)		H29年度目標		H30年度目標		環境活動計画実施事項	対象事業所
	丸山産業㈱	丸山化工㈱	丸山産業㈱	丸山化工㈱	丸山産業㈱	丸山化工㈱		
売上高100万円あたりの二酸化炭素排出量に対する削減	78.27	371.38	H28年度実績に対して維持	H28年度実績に対して維持	H28年度実績に対して維持	H28年度実績に対して維持	①空調温度適正化・表示(夏28℃冬23℃)	全事業所共通
							②照明・PC電源不要時のOFFの推進	全事業所共通
							③エアコン清掃の実施	全事業所共通
							④エコドライブ推進	全事業所共通
							⑤電力、ガソリン量の集計	全事業所共通
							⑥スポットエアコン有効利用	丸山化工㈱
							⑦材料倉庫空調設備2台→1台	丸山化工㈱
							⑧カレンダータイムセット時間の短縮	丸山化工㈱
							⑨管理項目の評価と削減方法の検討	全事業所共通
							⑩管理項目の評価と削減方法の検討	全事業所共通
売上高100万円あたりの廃棄物に対する削減	3.46	58.82	H28年度実績に対して維持	H28年度実績に対して維持	H28年度実績に対して維持	H28年度実績に対して維持	①廃棄物分別の徹底化	全事業所共通
							②廃棄物置場の点検	全事業所共通
							③排出業者との契約書の確認	全事業所共通
							④マニフェストの管理方法の確立	全事業所共通
							⑤古紙再利用の推進(裏紙有効利用)	全事業所共通
							⑥バリ/不良品の低減	丸山化工㈱
							⑦材料費の低減	丸山化工㈱
							⑧ロヒ-ミスの低減(特にカラー)	丸山化工㈱
							⑨移動票サイズ縮小化の検討	丸山化工㈱
							⑩管理項目の評価と削減方法の検討	全事業所共通
丸山産業㈱ 水資源投入量の削減	290	4.24	H28年度実績に対して維持	H28年度実績に対して維持	H28年度実績に対して維持	H28年度実績に対して維持	①水道メータを確認する(漏水防止)	全事業所共通
							②節水表示	全事業所共通
							③節水コマの設置	全事業所共通
							④トイレの節水	全事業所共通
							⑤ロール水量調節バルブの設置	全事業所共通
							⑥管理項目の評価と削減方法の検討	全事業所共通
丸山化工㈱ 売上高100万円あたりの水資源投入量に対する削減							①環境配慮商品を考慮し物品購入を心がける	全事業所共通
							②顧客からの環境情報収集の定着化	全事業所共通
グリーン購入並びに製品及びサービスに関する項目	-	-	-	-	-	-	③物流省力化商品の販売強化	東京営業所・多摩営業所
							④製品梱包形態の簡素化(無梱包化)	前橋営業所・丸山化工㈱
化学物質使用量に対する削減	-	-	-	-	-	-	①化学物質の管理の徹底	前橋工場
							②排油の管理の徹底	前橋工場

#### 4. 環境目標とその実績(2)

当社に於ける平成26年度の環境負荷実績を把握し、平成29・30年度目標を下記の通り定め集計した実績になります。  
 購入電力の二酸化炭素排出係数は0.378を用いています。  
 (丸山化工(株)本社・東京事業所のカソリン使用量以外の数値は丸山産業(株)本社・東京営業所の数値に含まれていません。)

環境目標項目	丸山産業株式会社					丸山化工株式会社				
	参考数値		基準値	目標 H28年度 実績に 対して維持	目標 H28年度 実績に 対して維持	参考数値		基準値	目標 H28年度 実績に 対して維持	目標 H28年度 実績に 対して維持
	H27年度	H28年度	H28年度	H29年度	H30年度	H27年度	H28年度	H28年度	H29年度	H30年度
売上高100万円あたりの二酸化炭素排出量に対する削減【kg/売上高百万】	78.62	73.25	73.25	68.23		408.0	311.13	311.13	346.68	
売上高100万円あたりの廃棄物に対する削減【kg/売上高百万】	3.14	3.61	3.61	3.91		73.50	3.08	3.08	21.7	
環境目標項目	丸山産業株式会社					丸山化工株式会社				
	参考数値		基準値	目標 H28年度 実績に 対して維持	目標 H28年度 実績に 対して維持	参考数値		基準値	目標 H28年度 実績に 対して維持	目標 H28年度 実績に 対して維持
	H27年度	H28年度	H28年度	H29年度	H30年度	H27年度	H28年度	H28年度	H29年度	H30年度
丸山産業(株) 水資源投入量の削減										
丸山化工(株) 売上高100万円当たりの水資源投入量に対する削減【m <sup>3</sup> /売上高百万】	261.5	273	273	307		5.9	5.3	5.3	6.62	

グリーン購入並びに製品及びサービスに関する項目及び化学物質使用量に対する削減に関しては数値目標は設けていませんが、各事業所において活動計画は実施しています。  
 また、平成27年度～平成28年度は参考数値として記載しております。

## 5. 環境活動計画の取組みと評価

### 丸山産業㈱

\*平成29年度（平成29年4月～平成30年3月）の活動の取組みと評価をしております。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 H28年度に対し、維持  目標の達成状況：7.23%減◎	目標達成。 電気・ガソリンともに使用量も削減でき、結果排出量も削減できた。売上維持しながら目標を達成できたことが評価できる。 このまま活動を継続。
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 H28年度に対し、維持  目標の達成状況：8.31%増×	目標未達成。 昨年同様、工事物件の受注が増えることにより産廃廃棄物も多くなる。 売上増の目標と反比例して増加する部分なので、今後の状況を確認し目標を設定していく。
3. 水資源投入量の削減 『目標』 H28年度に対し、維持  目標の達成状況：12.45%増×	目標達成未達成。 東京営業所において漏水を把握できず、使用量が大幅に増えてしまった。
4. グリーン購入並びに製品 及びサービスに関する項目	グリーン購入に関しては環境配慮商品の購入をコストを含めた上で推進はできている。 また、サービスに関する項目においては物流省力化商品の売上高は横ばい、得意先の状況にもよる商品なので、今後も販売強化の方向を維持。梱包の簡素化は昨年同様よく出来ている。

### 丸山化工㈱

\*平成29年度（平成29年4月～平成30年3月）の活動の取組みと評価をしております。

活動計画・達成状況	環境活動計画の取組み結果の評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 『目標』 H28年度に対し、維持  目標の達成状況：11.43%増×	目標達成。 電気の使用量が増加している。 ロール機稼働時間の増加に伴うものだが、売上は微増。
2. 廃棄物排出量の削減 『目標』 H28年度に対し、維持  目標の達成状況：604.5%増×	目標達成。 前年が飛躍的に削減できた事と、産業廃棄物の収集がなかったことにより、今年度において一度の廃棄物収集が大幅増になってしまった。目標値の是正が必要と考える。
3. 水資源投入量の削減 『目標』 H28年度に対し、維持  目標の達成状況：24.9%増×	目標未達成。 女子トイレにて漏水があり、数値記録二回目にして原因追及に至った。記録者への平常値、異常値の判断基準を教育する必要がある。
4. グリーン購入並びに製品 及びサービスに関する項目	グリーン購入に関しては環境配慮商品の購入をコストを含めた上で推進はできている。 また、サービスに関する項目においては、梱包の簡素化はよく出来ている。
5. 化学物質使用量に対する削減	漏えい防止措置及び緊急事態訓練の実施。 化学物質購入量の確認を行っている。

\*丸山化工㈱東京本社・東京事業所のガソリン使用量以外の各数値は、丸山産業㈱本社・東京営業所の数値に含まれています。

## 6. 環境関連法規制の遵守

### 1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守状況	対象
自動車から排出される窒素酸化物の特定地域における総量の削減等に関する特別処置法	遵法	丸山産業㈱・丸山化工㈱
下水道法	遵法	丸山産業㈱・丸山化工㈱
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	遵法	丸山産業㈱・丸山化工㈱
消防法	遵法	丸山産業㈱・丸山化工㈱
フロン排出抑制法	遵法	丸山産業㈱・丸山化工㈱
水質汚濁防止法	遵法	丸山化工㈱
浄化槽法	遵法	丸山化工㈱
振動規制法	遵法	丸山化工㈱
悪臭防止法	遵法	丸山化工㈱
労働安全衛生法	遵法	丸山化工㈱
化学物質排出把握管理促進法(PRTR制度)	遵法	丸山化工㈱
群馬県の生活環境を保全する条例	遵法	丸山化工㈱

### 2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規は、平成30年3月までの確認をし、遵守しています。

関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

## 7. 代表者による全体評価と見直し

総括：

昨年に比べ、未達成部分が多い。特に漏水に関して、東京営業所は蛇口が最後まで閉められていなかったことは社員教育をして再度浸透させていくことが必要。丸山化工は設備の老朽化もあり、数値の記録時に異常を察知できるようにすること。

丸山産業においては、新入社員が入社したことも踏まえ、改めて環境活動に取り組み全員に浸透させるようにすること。

丸山化工は製造品目にかかる環境コストの大まかな把握をしていくことで、環境活動と売上が比例するように商品見積をしていくこと。